

平成 29 年度 第 48 回ジュニアオリンピック陸上競技大会県予選会 実施要項

- 1 主催 一般財団法人青森陸上競技協会
 後援 青森県教育委員会・公益財団法人 青森県体育協会・青森県中学校体育連盟
 主管 一般財団法人青森陸上競技協会・弘前市陸上競技協会
 協力 弘前市内中学校陸上競技部
- 2 期 日 平成 29 年 8 月 26 日（土） 7 時 00 分 ～8 時 20 分公式練習、8 時 30 分 開 会 式
 9 時 00 分 競技開始 ※監督会議、閉会式は行わない。
- 3 場 所 弘前運動公園陸上競技場
- 4 種 目 [男子] A（中学校 3 年）……………100m、200m、3000m、110mH、走高跳、砲丸投
 B（中学校 2 年）……………100m、1500m、110mH、走幅跳、砲丸投
 C（中学校 1 年）……………100m、1500m、走幅跳
 A B C 共通……………円盤投、ジャベリックスロー
 [女子] A（中学校 3 年）……………100m、200m、3000m、100mH、走高跳、砲丸投
 B（中学校 2 年）……………100m、1500m、100mH、走幅跳、砲丸投
 C（中学校 1 年）……………100m、800m、走幅跳
 A B C 共通……………円盤投、ジャベリックスロー

※ハードル種目

クラス	高 さ	ハードル間	クラス	高 さ	ハードル間
A 男子	0.991m	9.14m	A 女子	0.762m	8.50m
B 男子	0.914m	9.14m	B 女子	0.762m	8.00m

※投てき物の重量

クラス	男 子		女 子	
	種 目	重 量	種 目	重 量
A	砲丸投	5.000kg	砲丸投	4.000kg
B	砲丸投	4.000kg	砲丸投	2.721kg
A・B・C	円盤投	1.500kg	円盤投	1.000kg
共通	ジャベリック	0.300kg	ジャベリック	0.300kg

- 5 選手 の 年齢基準 (クラス)
 A. 14 歳以上～15 歳未満：2002（平成 14）年 4 月 2 日生～2003（平成 15）年 4 月 1 日生
 B. 13 歳以上～14 歳未満：2003（平成 15）年 4 月 2 日生～2004（平成 16）年 4 月 1 日生
 C. 12 歳以上～13 歳未満：2004（平成 16）年 4 月 2 日生～2005（平成 17）年 4 月 1 日生
- 6 参加資格 平成 29 年度青森陸上競技協会登録者であること。
- 7 参加制限 1 人 1 種目とし、本大会へ出場する意志がある者に限る。ただし、県選抜リレーへの上場を希望する者のみ 100m と兼ねることができる。その場合（100m と他 1 種目の 2 種目出場の場合）、100m で 1 位～2 位になるとリレーメンバーの選抜対象とされる。（以下参照）
 (1) 100m で 1～2 位、100m 以外の種目で 1 位 →100m 以外の種目と選抜リレーに出場
 (2) 100m で 1 位、100m 以外の種目で 2 位以下 →100m と選抜リレーに出場
- 8 表 彰 1 位から 8 位まで賞状を授与する。
- 9 参 加 料 1 種目 1,000 円

【銀行振込先】 青森銀行 新町支店（102）
 普通口座 3043158
 青森陸上競技協会 競技部 代表 川下 友徳

※手数料は、各学校で負担する。

※受取人は、「県陸協」などと省略せずに「青森陸上競技協会 競技部 代表 川下 友徳」と明記する。

※依頼人は、個人名ではなくプログラム記載（通信陸上等のプログラム個人種目の所属欄を参照）の「学校名（〇〇市・〇〇町・〇〇村立はつけない）」で記入すること。

※「参加料」は必ず申し込みと同時に、銀行振込で納入すること（厳守）。

学校事情で遅れる場合などは必ず11-(5)の問い合わせ先に一報を入れること。

※「参加料」の入金額、受取人・依頼人を間違えて記入しないこと。

10 申込締切 平成29年7月28日（金）23:59まで。青森陸上競技協会事務局へメールによる申込完了をもって申込締切とする。また、FAXや電話での申込は受け付けない。学校事情による申込締切後の訂正や参加料の返金には応じない。申込締切に遅れた学校は、本大会への参加を一切認めない。

- 11 申込方法
- (1) 青森陸上競技協会ホームページを参照すること。
 - (2) メールで送信されてくる申込用のファイルで申込書を作成すること。
※登録者（代表者）にメールで申込ファイルを送信する。メール受信者側のパソコン環境によって、迷惑メールフォルダ等に送付されている場合があるので確認すること。
申込ファイルが申込締め切り1週間前になっても届かない場合は、申込締切に間に合うよう余裕を持って問い合わせ先までメールで連絡すること。
 - (3) 青森陸上競技協会競技部事務局へメールで申し込むこと。
※メールで送信されてくる申込用のファイルの諸注意にしたがって入力する。
※申込者のミスによる番組の再編成、当日の追加・訂正は行わない。
※申込の際には、入力記載ミスが無いかどうか再度確認をすること。
 - (4) 申込アドレスは、以下の通り。

申し込みメールアドレス jolympic2017@mutsu-rk.jp
--

- (5) 申込・振込に関する問い合わせ先
青森陸上競技協会 競技部長 川下友徳 ※問い合わせはメールのみ受け付ける。
メールアドレス kawashita-tomonori@m01.asn.ed.jp

- 12 申込注意
重要事項
- (1) 深夜に電磁的に自動的番組編成が行われるので、7月28日（金）23時59分以降の申込みは一切無効になる。
 - (2) 大会申込作業を代行会社に委託しているため、申込締切日以降は申込変更（ナンバー、氏名、所属、学年、種目等）申込遅延など全ての申込みに関する受付はできない。
 - (3) 申込変更、申込遅延などにより、申込受付作業、番組編成作業をやり直した場合は、手数料（作業代金：参加料相当）を関係団体及び関係する個人から頂くこともある。
 - (4) 申込締切後、学校事情等による参加料の返金には応じられない。
 - (5) 本大会参加料の振込先と選手登録料『青森県競技者登録』の振込先は異なる。
 - (6) 参加料の振込金額の間違いや振込先の間違いなどにより、返金作業、入金作業を行った場合は、別途振込手数料などを関係団体及び関係する個人から頂くこともある。

13 参加料の
領収書に
ついて

参加料は銀行振込のため、銀行振込明細書をもって参加料の領収書の発行に代える。銀行の振込控えが税務上も正規の領収書となる。ただし、参加団体で銀行の振込金領収書とは別に、領収書の発行を希望する場合は、青森陸上競技協会HPより「領収書」の様式をダウンロードし、必要事項を記入・捺印の上、金融機関発行の銀行振込明細書を添付して受付に持参する。大会当日に受付において内容を確認の上、押印して領収書を発行する。

14 競技日程
について

競技日程（タイムテーブル）については、（案）を青森陸上競技協会HPに掲載する。申込締切後、競技時刻などが確定次第、再度、（確定版）の競技日程を青森陸上競技協会HPに掲載する。（8月18日（金）以降の予定）

<http://www.jomon.ne.jp/~arikkyo/chukotairen.html>

- 15 選手選考について (1)参加標準記録を突破している選手は、この大会に出場しなくても本大会へ出場できる。
(2)参加標準記録を突破している選手のいる種目については、参加標準記録を突破しないと本大会への出場ができない。
(3)参加標準記録を突破している選手がいない種目は、ジュニアオリンピック陸上競技大会県予選で1位になれば、本大会への出場ができる。
※上記の選手選考基準を満たした者は、競技終了後、本部にて本大会参加の手続きを行ってください。
※本大会は、平成29年10月27日(金)～10月29日(日)までの3日間、日産スタジアム(神奈川県)で開催されます。
(4)男女の県選抜4×100mRの選考は、青森陸上競技協会の代表選手選考委員会で決定します。
リレーの選手選考基準は、以下の通りです。
①平成29年度第48回ジュニアオリンピック県予選会に出場している。
②平成29年度第48回ジュニアオリンピック県予選会100mで1位～2位の選手。
※Aクラス、Bクラス、Cクラスから基本的に2名ずつ選抜します。選手の選考の決定については、9月上旬をめどに所属長宛に封書でお知らせします。
※県選抜リレーチームに選抜された選手は、本大会前に練習会を行います。練習会の日程や詳細については、後日、文書でお知らせします。
- 16 ジュニアオリンピック本大会参加資格について 2017年度日本陸上競技連盟登録者で下記(1)～(5)のいずれかに該当すること。
(1)2017年4月1日～2017年9月10日の間に参加標準記録に到達した者。ただし、本県は平成29年度第48回ジュニアオリンピック陸上競技大会県予選会を最終選考会とする。
(2)参加標準記録の突破に関係なく、それぞれの種目ごとに各都道府県から代表選手1名は出場できる。(同一区分の同一種目に2名以上出場する場合はすべて競技者が標準記録を突破していること)
(3)リレーは各都道府県から1チームのみ、参加できる。
(4)室内競技会の記録は無効とする。
(5)参加標準記録を設けない種目について(男女・ABC共通ジャベリックスロー)は、各都道府県から1名のみ、参加できる。
- 17 その他 (1)参加標準記録の突破が認められる競技会及び記録は、公認競技会及び公認記録とする。
(2)青森陸上競技協会では競技場を前日借用していないため、練習などで使用したい場合は参加校の責任の下で行うこと。その場合においても、円盤、ジャベリックの投擲練習は禁止とする。
(3)本大会への参加について、青森陸上競技協会から以下を提供・補助する。
・本大会への参加申込の業務及び全ての参加料
・選手の遠征費の一部(選手1名につき1万円)
・リレーチームには青森県チームのユニフォーム上下(最大6名分)
(4)競技場周辺芝生部分はテント設営可能です。
(5)主競技場内において、通路を妨げての設営、フェンスに紐を結びつけての設営はおやめください。また、メインスタンドに、テントやタープ等を設営しないでください。
(6)競技終了後、テント・タープ・ブルーシートはたたみ、忘れ物がないようにしてからお帰りください。
(7)テント設営場所は「県中体連 各地区中学校テント配置」を参照してください。

第48回ジュニアオリンピック競技大会 参加標準記録一覧表

期日 平成29年10月27日～10月29日（日産スタジアム・神奈川）

平成29年7月16日（日）現在

区分	男子			女子		
	種目	参加標準記録	参加標準記録突破者	種目	参加標準記録	参加標準記録突破者
A 中学 3 年	100m	10秒90		100m	12秒30	
	200m	22秒40		200m	25秒40	
	3000m	8分46秒00		3000m	9分51秒00	
	110mH (0.914m/9.14m)	14秒40		100mH (0.762m/8.00m)	14秒30	
	(0.991m/9.14m)	15秒10		(0.762m/8.50m)	14秒60	
	走高跳	1m91	斎藤翔太（中郷中3）	走高跳	1m63	
砲丸投 (5.000kg)	14m50		砲丸投 (4.000kg) (2.721kg)	11m00 13m50		
B 中学 2 年	100m	11秒20		100m	12秒50	
	1500m	4分10秒00		1500m	4分36秒00	
	110mH (0.914m/9.14m)	15秒30		100mH (0.762m/8.00m)	14秒90	
	走幅跳	6m35		走幅跳	5m35	
	砲丸投 (4.000kg) (5.000kg)	14m50 13m00		砲丸投 (2.721kg)	12m45	
C 中学 1 年	100m	11秒80		100m	12秒80	
	1500m	4分25秒00		800m	2分18秒50	
	走幅跳	5m80		走幅跳	5m00	
A B C 共通	円盤投 (1.500kg)	<u>39m00</u>		円盤投 (1.000kg)	<u>34m00</u>	
	ジャベリックスロー (0.300kg)	1名		ジャベリックスロー (0.300kg)	1名	
	※4×100mR	1チーム (県選抜)	/	※4×100mR	1チーム (県選抜)	/

※ は本競技会で採用する規格

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は、2017年度（財）日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。

2 練習について

- (1) 大会当日の練習は、各校監督の立ち会い・責任のもと、7:00～8:40までの時間で行うこと。
- (2) 競技場には、選手、監督・コーチ以外立ち入らないこと。
- (3) 競技場での練習は、トラック競技・跳躍競技・砲丸投のみとする。
- (4) 競技場での練習および投てきピットでの練習は、危険が伴うので十分注意すること。
 - ① レーンを横ぎる際は、前後左右を確認し、安全に留意すること。第4コーナーからホームストレート付近は危険なので特に注意する。また、110mハードル競技のスタート地点やハードルを跳び終わった後のレーン移動には十分注意すること。
 - ② 砲丸投は砲丸投ピットでのみ、投てき練習を認める。投げる際は、安全を十分に確認してから投げること。
 - ③ 公式練習以外で円盤・ジャベリックを実際に投げる投てき練習は禁止する。
 - ④ 円盤投は円盤投ピットのサークル内で、円盤を持たないで行うターン練習のみ認める。
 - ⑤ ジャベリックスローはやり投ピットの助走路で、ジャベリックを待たないで行う足合わせ、助走練習のみ認める。
- (5) トラック競技およびフィールド競技において、代理人による順番待ちは禁止する。
- (6) 競技場のトラックにおいて次の行為を禁止する。
 - ① ラダー、ミニハードルなどの道具をレーン上においての練習。
 - ② チューブやロープなどで牽引する練習。
 - ③ 逆走、ジョグ、準備運動、ドリルなどの技術練習。
 - ④ 急に減速したり、立ち止まったりする行為。
 - ⑤ 不用意にトラックを横切る行為。
- (7) 全天候舗装の走路は、9mm以下のスパイクを使用すること。ただし、走高跳・ジャベリックスローについては12mm以下とする。
- (8) 競技場のメインスタンド下中央通路での練習は禁止する。
- (9) 競技場の「レーン」の使用区分は原則として次のようにする。
 - ① トラックの外周芝及びフィールド内の外周芝はジョギング。
 - ② 周回1・2レーンは中長距離、タイムトライアル用。
 - ③ 周回3・4レーンは200m・400mスタートダッシュ用。
 - ④ ホームストレート3・4レーンは100m・流し・スタートダッシュ用。
 - ⑤ ホームストレート5レーンはB女子100mH。(高さ0.762m、ハードル間8.00m)
 - ⑥ ホームストレート6レーンはA女子100mH。(高さ0.762m、ハードル間8.50m)
 - ⑦ ホームストレート7レーンはB男子110mH。(高さ0.914m、ハードル間9.14m)
 - ⑧ ホームストレート8レーンはA男子110mH。(高さ0.991m、ハードル間9.14m)
- (10) 使用した用具は、きちんと片付けること。

3 招集について

- (1) 招集場所は、100mスタート付近のスタンド下に設ける。
- (2) 招集時刻はその競技の開始時刻を基準として下記の招集時刻による。

トラック	組	開始	完了	
競 技	全	25分前	15分前	

フィールド 競 技	種 別	跳 躍		種 別	砲 丸 投		種 別	円盤投・ジャベリックスロー	
	予・決	開始	完了	決	開始	完了	決	開始	完了
		40 分前	30 分前		30 分前	20 分前		50 分前	40 分前

(3) 招集の方法

- ① 競技者は招集開始時刻（点呼開始時刻）に集合し、係員による点呼を受ける。その際、ユニフォーム、ナンバーカード、競技用シューズ（スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳・ジャベリックスローは12mm以内。）、商標及び競技区域内への持込物品などについて確認を受ける。なお、携帯電話などの通信機器は競技区域内に持ち込んではいない。持ち込んだ場合は失格とする場合がある。
- ② 点呼終了後、招集完了時刻（移動開始時刻）に競技場内のスタート地点に移動する。原則としてスタンドの外を通ること。スタンド前及びスタンド下本部前を通らないこと。
- ③ 同時刻帯に2種目兼ねて出場する競技者は、予めその旨を本人または代理人が「2種目同時出場届」（用紙は招集所に準備）に記入し、招集開始時刻までに招集所の競技者係に提出する。競技については担当競技役員に申し出て指示に従うこと。
 - (a) フィールド競技に戻った場合、競技が終了していれば追加試技は行わない。
 - (b) 走高跳においてはパス扱いとし、戻った時の高さから始めさせる。
 - (c) 走幅跳および砲丸投、円盤投、ジャベリックスローについては、競技に戻った時点のラウンドの試技を認めるが、トップ8が確定してからの試技は認めない。
- ④ 代理人による最終点呼は認めない。
- ⑤ 招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。

(4) 招集の留意事項

- ① 出場すべき競技種目を棄権する場合は、「欠場届」（プログラムに掲載）に顧問または監督が記入し、招集開始時刻までに招集所の競技者係に提出すること。
- ② 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権するものとして処理する。
- ③ 招集に関する提出書類は次のとおりである。

書類の種類	準備場所	提出場所	提出時刻
欠場届	プログラム掲載	招集所競技者係	招集開始時刻
2種目同時出場届	招 集 所	招集所競技者係	招集開始時刻

4 ナンバーカードについて

(1) 胸部及び背部のナンバーカードについて

- ① 競技者は、プログラムに記載されたナンバーと同じナンバーカードを配布された大きさをユニフォームの胸部と背部につける。
- ② 跳躍種目に出場する競技者は、胸部または背部の一方でよい。

(2) 腰ナンバーカードについて

- ① トラック競技に出場する競技者は、配布された腰ナンバーカードをランニングパンツ（タイツ）の右やや後方につけること。
- ② 腰ナンバーカードは、主催者が準備し招集所で配布する。競技終了後、ゴール地点でゴミ箱に入れること。

(3) 特別ナンバーカードについて

- ① 3000m 競技は、招集所で配布される周回確認用の特別ナンバーカードを胸部に使用する（背部はプログラム記載のナンバーカード）。
- ② 特別ナンバーカードは、主催者が準備し招集所で配布する。なお、招集所での点呼の際は胸部の正規ナンバーカードは着用せずに持参し、招集所で配布される特別ナンバーカードを着用すること。特別ナンバーカードは競技終了後、ゴール地点で回収する。

5 競技場への入退場について

- (1) 競技場への入場は、原則すべて係員の指示誘導による。
- (2) トラック競技の競技者の退場は、フィニッシュラインに到着後、ゴール側ゲートから退場する。
- (3) フィールド競技の競技者の退場は、係員の指示誘導による。
- (4) トラック及びフィールド競技とも、入賞者（1～8位）は、競技終了後直ちに入賞者控室に移動し待機すること。なお、本部前は通行禁止とする。

6 番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技の走路順、並びに決勝におけるフィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で示す。
- (2) トラック競技において、予選以降における組み合わせ及び走路順は、主催者が公平に抽選して決定し、決定次第招集所の掲示板に掲示して発表する。
- (3) タイムにより次のラウンドの出場者を決めるときに同記録者があるときは、下記の方法で決定する。
 - ①100m～400m・100mH・110mH・リレー競技の同記録者については、規則第167条に従い判定する。
 - (a) 予定された人数を上回って同記録が出た場合は、400mまでの競走とリレー競走については、写真判定の拡大写真を細部（電気計時1/1000）まで読み取り着差を判定する。それでも同着の場合は、抽選とする。
 - ②800m以上の競走においては、写真判定の拡大写真を細部（電気計時1/1000）まで読み取り着差を判定する。それでも同記録の場合は全員次のラウンドに進める。
 - (a) 最終枠の同記録者で抽選を行う。同記録者が2人のとき、9人目の選手が入るのは8レーンとする。その場合、外側2レーン中位グループで抽選を行う。同記録者が3人の場合、10人目の選手が入るレーンは2レーンとし、内側2レーンは下位グループで抽選を行う。

7 競技について

本大会は、下記の主な留意事項に基づいて運営する。

- (1) トラック及びフィールド内には、その競技を行う競技者並びに役員（審判員および該当補助員）以外は立ち入ることはできない。
- (2) 競技中の助力については、規則第144条に基づくものとする。ただし、競技区域内での助力は禁止とするが、スタンドからの助言については、競技運営並びに他の競技者の妨げにならない範囲で、コーチングエリア内に限って認めるものとする。
- (3) 競技者は、当該競技場を勝手に離れることはできない。また、ビデオカメラ・オーディオプレーヤー・トランシーバー・携帯電話もしくは類似した機器を競技区域内に持ち込むことはできない。
- (4) トラック競技について
 - ① スタートの合図は英語で行う。不正スタートは1回目から失格とする。
 - ② トラック競技の着順と計時は原則として写真判定（1/1000秒）で行う。
 - ③ セパレートレーンで行うトラック競技における欠場者のレーンはそのままあけておく。
 - ④ セパレートレーンで行うトラック競技では、競技者は安全確保のためフィニッシュラインに通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走って終了する。
- (5) フィールド競技
 - ① フィールド競技の公式練習は原則2回とし、競技場および競技区域内での練習は審判員の指示により行う。
 - ② 走高跳を除く跳躍種目およびジャベリックスローの競技者は、助走路の外側に主催者の用意したマーカーを2個まで置くことができる。また、走高跳競技に出場する競技者は、助走路内に各自が用意したマーカー（粘着テープ）を2個まで置くことができる。
 - ③ 走幅跳については、男子5m40以下、女子4m50以下は計測しない。
 - ④ 投てき競技の計測は、光波測定器を使用する。ただし、砲丸投についてはメジャー計測とする。
 - ⑤ 砲丸投については、男子9m50、女子9m00以下は計測しない。

- ⑥ 円盤投については、男子 15m00、女子 10m00 以下は計測しない。
- ⑦ ジャベリックスローについては、男子 35m00、女子 20m00 以下は計測しない。
- ⑧ フィールド競技では、原則すべての種目の試技において、1 分以内に試技を行わなければならない。

8 競技用具について

- (1) 競技者が本大会で使用する器具は、全て主催者の用意したものを使用すること。ただし、投てき用具については、主催者が用意した投てきリストとして記載されていない場合、借り上げるものとする。
- (2) 借り上げる投てき用具の検定は、競技開始 1 時間前（招集開始時刻）までに器具庫前（ゴール側スタンド下）で行う。検定に合格した用具は一括借り上げし、大会用投てき器具として取り扱う。借り上げた投てき用具は、大会用投てき用具として取り扱う。
- (3) 借り上げた投てき用具の返却は、競技終了後に器具庫前（ゴール側スタンド下）で返却する。
- (4) 競技者個人の器具は、借り上げた投てき用具以外、練習用といえども競技区域内に持ち込んではならない。

9 バーの上げ方について

- (1) 走高跳および棒高跳競技におけるバーの上げ方は、最後の一人になる場合を除き、次のとおりとする。
 - ① 下記のバーの上げ方を、天候その他の条件によって変更する場合は当該審判長が決定する。
 - ② 第 1 位に同順位者が出た場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳 2cm 単位とする。

種 目	練 習	1	2	3	4	5	6	7	8	9	以 降
A 男子走高跳	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	1m88	<u>1m91</u>	1m94	3 cm 刻み
A 女子走高跳	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	<u>1m63</u>	1m66	1m69	3 cm 刻み

10 計測標準記録について

- (1) フィールド競技種目については、全員 1 回は計測を行う。以後、計測標準記録の設定に従って計測を行うこととする。ただし、計測標準記録は天候その他の事情により、変更する場合がある。

11 抗議について

- (1) 競技の結果または行為に関する抗議は、規則第 146 条に基づき、正式通告後 30 分以内に、また、次のラウンドが行われる競技種目では、その結果が正式に通告されてから 15 分以内に、競技者自身または代理人（顧問）が、担当総務を通じて審判長に対して口頭で申し出る。
- (2) 口頭での抗議に対する裁定に不服の場合は、その競技者にかわる責任者（顧問）が、文章と預託金 10,000 円を添えて本大会総務へ正式な上訴の手続きをとる。尚、この預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。

12 競技者の競技場内への持ち込み物品について

- (1) 競技者は競技場内（練習場も含む）に、企業名、商標名等のついた物品を持ち込む場合には、規定にあったもの以外持ち込んではならない。競技役員に指摘された場合は、その指示に従うこと。

13 表彰について

- (1) 各競技種目の表彰は第 1 位から第 8 位までとする。
- (2) 表彰を受ける競技者は、競技終了後、直接表彰控え場所へユニフォームを着用して集合すること。
- (3) 表彰場所は、主競技場メインスタンド前で行う。競技進行状況によってはメインスタンド下の室内で行う。
- (4) 他の競技時刻と重なる場合は代理人をたてること。

14 応援について

応援は各競技の進行状況をよく確認し、競技者に迷惑にならないようマナーを守るとともに、特に下記の点について留意する。

- (1) メインスタンドでの集団応援を禁止する。集団応援は芝スタンドのみとする。
- (2) 太鼓、笛等の鳴物等を利用しての応援は一切認めない。
- (3) トラック競技においては、競技種目並びに出場競技者を紹介するアナウンスがあり次第、応援を自粛し静粛にする。
- (4) フィールド競技においては、試技を開始しようとしている競技者がいる時は応援を自粛する。特に、バックスタンド側の跳躍ピットで競技が行われている際は、バックスタンドでの集団応援は禁止とする。
- (5) トラック競技とフィールド競技が同時進行で実施されている場合は、特にフィールド競技に出場している競技者に配慮して応援する。
- (6) メインスタンドへの出入口付近、およびメインスタンドの通路、並びにスタンド周辺の最前列にある手すり付近に立っての観戦および応援は、観客の迷惑になるので禁止とする。
- (7) コーチングエリア内の立ち入りは、各校顧問・コーチを優先すること。
- (8) 観客席（スタンド：座席シートになっているところ）前と中央の手すりに横断幕及びのぼり旗をはらないこと。また、競技場芝生スタンドの手すりにも横断幕及びのぼり旗をはらないこと。

15 個人情報の取り扱いについて

- (1) 主催者は個人情報の保護に関する法律および関連法令等を遵守し、個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の資格審査・プログラム編成および作成・記録発表・公式ホームページ・その他競技運営および陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (2) 大会の映像・写真・記事・記録等は、主催者が承認した第三者が大会運営および宣伝等の目的で、大会プログラムやポスター等の宣伝材料・テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。
- (3) 大会参加に際して提供される個人情報は、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません。

16 ジュニアオリンピックの手続きについて

- (1) 今大会でジュニアオリンピック大会の参加標準記録を突破した者は、その出場資格を得る。結果が判明したら、ただちに本部内「青森陸上競技協会強化部」で手続きを行うこと。
- (2) 参加標準記録を突破していない種目や参加標準記録が設定されていない種目は、該当する種目で優勝した競技者が、その出場資格を得る。結果が判明したら、ただちに本部内「青森陸上競技協会強化部」で手続きを行うこと。

17 その他

- (1) 救急、救護に関する処置は、メインスタンド下の医務室で応急処置のみ行うが、その後の責任は負わない。
なお、参加者は健康保険証を持参すること。また、アイシングで使用する氷は各校で準備すること。
- (2) トレーナーをメインスタンド下のトレーナー室に配置する。選手のコンディショニングを整えるのに利用すること。なお、利用の際は、各学校の監督の許可が必要となる。トレーナー室で渡される用紙に監督のサインを必ずすること。
- (3) 競技場内の更衣室を使用してもよい。ただし、敷物等を利用して休憩場所としての使用は認めない。
- (4) 公園内通路や施設内をスパイクでの通行は禁止する。滑って転ぶ恐れや施設を傷める原因になる。
- (5) 招集所からスタート地点への移動は、原則としてスタンドの外を通ること。メインスタンドの前は、絶対に通らないこと。
- (6) 届けられた遺失物については、大会庶務係で保管する。保管期限は、競技終了までとする。
- (7) 置き引き、盗難等の発生する恐れがあるので、各自持ち物および貴重品等の管理には十分注意する。

競技場使用についての注意事項

1 競技場の開門・閉門時刻

- (1) 大会開催日の開門は6時30分とする。閉門は全日程終了時刻とする。
- (2) 決められた時間内で使用すること。また、開門前に塀を乗り越えてグラウンド内に入らないこと。

2 競技場の使用について

- (1) 競技場での練習の際は、安全に留意し、各校の監督の責任において練習を行ってください。
- (2) 競技場での練習については、別項「競技注意事項 2 練習について」を参照してください。
- (3) 青森陸上競技協会は、競技場を前日は借用していないため、練習等で使用したい場合は参加校の責任の下で借用・練習を行うこと。その場合、本競技場内での円盤・ジャベリックを実際に投げる投てき練習は禁止とする。

3 テント設営について

- (1) 競技場周辺芝生部分はテント設営可能です。
- (2) 主競技場内において、通路を妨げての設営、フェンスに紐を結びつけての設営はおやめください。メインスタンドに、テントやタープ等を設営しないでください。
- (3) 競技終了後、テント・タープ・ブルーシートはたたみ、飛ばされないようにしてからお帰りください。
- (4) テント設営場所は「県中体連 各地区中学校テント配置」を参照してください。

4 横断幕・のぼりについて

- (1) 横断幕は、メインスタンド最上段、芝スタンド前のフェンスに設営してください。競技を行う上で支障があるときは、取り外してもらうこともあります。
- (2) 横断幕は、1校1枚をお願いします。
- (3) のぼりは、芝スタンド後ろのフェンスに設営してください。

5 競技用具について

- (1) 競技用具は、用具庫から勝手に持ち出さないでください。
- (2) 砲丸投ピットでの練習用具（砲丸）は各校で準備をお願いします。

6 駐車場について

- (1) 大型バス・マイクロバスなどいずれのバス、乗用車とも、すべて駐車場に駐車してください。
- (2) 救急車両等の通行の妨げとなるので違法駐車はしないでください。
- (3) 大型バス・マイクロバスなどいずれのバス、乗用車とも、アイドリング・ストップに協力してください。
- (4) 各校の顧問の先生方は、選手の保護者やバスの運転手にアイドリング・ストップに協力して頂くよう大会前に確実に連絡を行ってください。
- (5) 駐車の際は、誘導員の指示に従ってください。

7 ゴミ処理について

- (1) ゴミは、各校（各自）でゴミ袋を準備し、持ち帰ることを原則とします。
- (2) 空き缶やゴミ、タバコの吸殻等のポイ捨てはしないでください。

8 その他

- (1) 置き引き、盗難等の発生する恐れがあるので、貴重品の管理は、各校の責任で十分注意してください。荷物を置いたまま、その場を離れることは絶対にしないでください。
- (2) 公園内施設（トイレや更衣室等）は正しく使用してください。器物や動植物等に悪戯をしないでください。
- (3) 競技場規則および申し合わせ事項に従い、ルールとマナーを守ってください。

練習会場使用日程について

【主陸上競技場（トラック・跳躍）】

8月26日（土） 7:00～ 8:20

・主競技上のレーン使用区分等は、以下の通りとする。

- ①トラックの外周芝及びフィールド内の外周芝はジョギング。
- ②周回1・2レーンは中・長距離、タイムトライアル用。
- ③周回3・4レーンは200m・400m スタートダッシュ用。
- ④ホームストレート3・4レーンは100m・流し・スタートダッシュ用。
- ⑤ホームストレート5レーンはB女子100mH（高さ0.762m、ハードル間8.00m）。
- ⑥ホームストレート6レーンはA女子100mH（高さ0.762m、ハードル間8.50m）。
- ⑦ホームストレート7レーンはB男子110mH（高さ0.914m、ハードル間9.14m）。
- ⑧ホームストレート8レーンはA男子110mH（高さ0.991m、ハードル間9.14m）。

【主陸上競技場（投てき）】

8月26日（土） 7:00～ 8:20

- ①砲丸投は主競技場内の砲丸投ピットでの投擲練習を可とする。
- ②公式練習以外で円盤・ジャベリックを実際に投げる投擲練習は終日禁止とする。
- ③円盤投は主陸上競技場の円盤投ピットのサークル内でターン練習のみ可とする。
- ④ジャベリックスローは主陸上競技場のやり投ピットの助走路での足合わせ、助走練習のみ可とする。

【練習会場での注意事項】

- 1 練習は指定された練習会場で、各校顧問の立ち会い・責任のもと、上記に指定された時間で行うこと。
- 2 練習会場には、選手、顧問・コーチ以外立ち入らないこと。
- 3 練習会場、特に砲丸投練習（投てきピット）では危険が伴うので、十分注意して行うこと。
 - ①レーンを横切る際は、前後左右を確認し、安全に留意する。
 - ②砲丸投練習の際は、安全を確認してから、投げること。
- 4 トラック競技およびフィールド競技において、代理人による順番待ちを禁止する。
- 5 練習会場のトラックにおいて次の行為を禁止する。
 - ①ラダー、ミニハードルなどの練習用具をレーン上に設置して行う練習。
 - ②チューブやロープで牽引する練習。
 - ③逆走。
 - ④急に減速したり、立ち止まったりする行為。
 - ⑤不用意にトラックを横切る行為。
- 6 全天候舗装の走路は、9mm以下のスパイクを使用すること。ただし、走り高跳び・ジャベリックスローについては12mm以下とする。
- 7 練習会場において、全日程を通して競技の終了した種目の用器具は準備しない。
- 8 主陸上競技場のメインスタンド下中央通路での練習は禁止する。
- 9 使用した器具は、きちんと片付けること。